

●議事2：介護人材の育成・確保に向けた取組について

意見
仕事についてのイメージにおいて、将来性と社会的な評価について肯定的な意見が多いことは喜ばしい反面、それが必ずしも介護・福祉分野の仕事を自分自身の選びたい仕事として捉えているとは思えない。この現状を打破するために、早くから介護・福祉に関心を持ってもらうことが大切であり、そのために、学校（小学校）で介護福祉施設での職業体験を行うと良いと思う。
小・中・高・大の学生へのオンラインでの介護福祉の紹介やアピール、SNS（YouTube、TikTok等）を利用して、認知度の向上が必要と思われる。
処遇と社会的地位の改善が不可欠と考える。社会的に重要な仕事としての介護という広報も必要と感じる。
一人の若者が高齢者を何人みていかなければいけないかを考え、その上で、AIやロボットの開発など介護分野で使えるものの紹介などをSNSで発信すると若者にも興味や関心を持ってもらえるのではないかと。また、介護職員の給与について、処遇改善がされているところもあり、現場で働く人たちの交流をもてる機会があるとより現状が伝わるのではないかと。
学生へのアンケート結果のとおり、出前講座×イベント×SNS等を組み合わせる方法は良いと思う。ただ、良い事ばかりのアピールだけではなく、介護に携わる方々の苦労話等も発信していかないと、早期の離職に繋がると思う。
地道にコツコツと若い世代に魅力を伝えていく努力をしていかなければならないと思う。施策に頼るだけでなく、介護の仕事に携わる者が本当に魅力ある職場を作っていく必要があり、関係者が一体となって取り組んでいくんだという意識を共有していかなければと思う。
介護職員の賃金面については、以前と比較しても改善傾向にあると思うが、実際の現場は賃金の問題だけではなく、身体面および精神面の疲労により介護職を離れる方もいる。賃金面の問題だけではなく、国・県・市がもっと魅力のある職業となるような扱いにするとともに、様々なツールを使って発信しながら介護人材の確保に努める必要があると思う。
若い世代（学生）に介護のことを知ってもらえるきっかけとして、大変良い機会となったことと思う。アンケートの中にもあるように、就活生のみならず、もっと小さな頃から介護に触れる機会が作れると良いと思う。
「介護＝暗い」というイメージが強いと思う。「私もあの人のように楽しそうに仕事がしたい。」「僕もあの人のようにかっこよく仕事がしたい。」などと思ってもらえるよう、そのような方々を前面に出すことによって、介護への入り口は今より開けると考える。